

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	とらいあぐる太陽 すずらん	評価実施年月日	平成22年1月25日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年1月25日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>〇地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	『その人らしい、安心した生活を地域と共に、いつまでも提供します。』と独自のケア理念を作り上げ、地域の中で一人ひとりの生活や個性を大切にしたホーム作りに取り組んでいる。	
2	<p>〇理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	玄関ホールに目に付くように掲示したり、ユニット会議やカンファレンスを開いて理念の共有・実践に向け、話し合い日々取り組んでいる。	
3	<p>〇家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	ご家族や地域の方々が来訪した時に分かる様に掲示している。ご家族には、広報誌を月に一度作成し、地域の中での交流・暮らしぶりを伝えている。地域の方々には、運営推進会議にて説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>〇隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	近隣の保育園児が散歩の途中にホームの窓に向かい手を振り声をかけてくれる。マンション住民の方とは挨拶を交わすようにしている。	〇 マンションの住民に立ち寄って頂けるような工夫をしていきたい。
5	<p>〇地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	町内会の行事で、花壇の苗植えや、敬老会、運動会見学等で地域の方々との交流をしている。	〇 今後も行事等の参加をしていきたい。
6	<p>〇事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	地域の高齢者の方に役に立つ取り組みは出来ていない。	〇 運営推進会議を通じて、事業者、職員が何を出来るか、話し合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価については、実施する意義を会議でも話し合い理解している。改善点についても話し合いを行っている。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回で今まで第18回まで実施している。会議ではホームの活動内容等を報告し、参加者の意見を活用しサービス向上に活かすように心掛けている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	札幌市が開催する研修や会議には積極的に参加している。その内容についても職員間で話し合い取り組んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	活用されている方はいないが、研修などに参加している。	○	ユニット会議などで、研修受講者を中心にして職員に理解してもらうようにしていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修会等に参加して、職員それぞれが学ぶ機会をもち、ユニット会議や申し送り時などに話し合い、職員間で指摘し合うようにしている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明は、本社上司も立会い、利用者やご家族が理解されるまで十分な説明・話し合いを行っている。また、リスクに関する説明も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情意見箱を玄関に設置している。 利用者の意見は、職員が十分に話を聞き、カンファレンスを開き、よりよい生活を送って頂けるよう努めている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族来訪時や状態変化の際は連絡を入れ、状況報告を行っている。また、毎月の広報誌(太陽通信)でも報告をしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口を設け、玄関には意見箱を設置している。また、面会時並びに電話などで出された要望などは、すぐに話し合っ運営に反映をさせて頂いている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度のユニット会議や、日々の申し送りなどで職員の意見や要望を聞くよう心掛けている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ユニット会議や、申し送りなどで話し合い、必要な時間帯に職員は確保できている。また緊急時の勤務調整も、対応出来る体制になっている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	管理者の退職交代は多いが、利用者の気持ちを十分考えダメージを最小限に抑えるようなフォロー態勢に配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修に参加し、研修内容をユニット会議で報告し、話し合いを行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者が昨年の8月に交代したばかりで、まだ交流等の機会は持っていない。	○	管理者連絡会などに出席して、情報交換や交流を図っていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	年に一度の親楓会を行い、職員や管理者等が集まれる場を設けてストレス軽減に向けて取り組んでいる。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	研修などに積極的に参加するよう促進している。ユニット会議を利用して、勉強会を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者の日々の行動を把握し、不安・悩み等、身体で訴えている様子を見極め、声掛けや話し合いをもって不安の軽減になるように努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	管理者・ケアマネージャーを中心に、ご家族と十分に話し合いを行い、信頼関係が築けるように努めている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>十分な時間や話しやすい状況を作り、そのための必要なサービス提供に努めている。</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前からサービス利用の検討を行い、ご家族の方にも出来るだけ面会に来て頂き、本人と共に相談しながら、徐々に馴染める様配慮をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>料理の盛り付け・茶碗拭き等のお手伝いをして頂いたり、体操やゲームなどを職員は共にして、個々の関わりを持ちながら、共に支えあう関係を築いている。</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時や電話などで、ご家族と連絡を取り合いながら、本人を支えていく関係を築いている。</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>ご本人とご家族との関係性が途切れないようなサービス、気分転換に外出していただく等の助言・支援に努めている。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの方の面会は歓迎しており、友人等の面会にも気持ちよく受け入れている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	体操やレクリエーションなどの活動と一緒にいき関わり合いをもてるよう努めている。利用者同士の行動や受止め方に相違がある時は、職員が間に入り、声掛けや見守りを行っている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された後でも連絡をくださるご家族がいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を取り入れ、利用者本人から話しを聞き希望に沿った生活が出来るように努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族、入居前までの病院及び他施設での生活情報等、十分に聞き入れ把握に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の生活記録や申し送りでの現状の把握をし、利用者にも心身状態を確認しながら把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員のもとケアカンファレンスを随時行い、ケアプランを作成している。また、ご家族の意見なども反映したプラン作りをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じて見直しを行い、以前に対応出来ない変化があった場合は関係者と話し合い新たな計画を作成している。また、状態・症状変化時の介護計画変更は適時行い、作成をしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を記入して、申し送りや会議などで随時情報共有をして、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望に応じて、外出・買物・趣味活動などを支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行事でのボランティア受け入れや白石消防署指導による消防訓練も実施している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	実施していない。	○	他サービス事業者との交流を図って活きたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月に1度運営推進会議の場で地域包括センターの職員から助言や情報交換をしたりして情報を共有している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>往診医・かかりつけ医師、サービス看護ステーションの看護師に相談しながら、協体制を作り健康管理に努めている。</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>個々の認知症状にあわせ精神科や認知症に詳しい医師のいる医療機関へ受診している。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>訪問看護ステーションの看護師が週1回訪問して、健康管理や往診医への情報提供をしている。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>利用者が入院時には、ご家族と病院関係者と密に情報交換に努め連携をしている。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化とした場合や終末期については、ご家族・医師、職員間の話し合いの中で方針を共有し、事業所が対応し得る最大限の支援を考慮している。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>往診医やかかりつけ医と話し合いの上、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49</p> <p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>馴染みの家具を配置したり、環境の変化を最小限にするよう努めている。他事業所等へ移り住む際は、関係者間で話し合いダメージを防ぐよう努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーを損ねるような声掛けをしないよう気をつけている。記録簿等の個人情報ファイルは、見えないようにドア付きの棚に保管するよう配慮している。</p>		
<p>51</p> <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望を表せるように声掛けしたり、個々に合わせた説明を行うようにしている。</p>		
<p>52</p> <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個々のペースを大切に希望に沿えるようにし、一人ひとりの状態に合わせて支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53</p> <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>整容については、毎日声掛けや介助を行っている。理美容については、月に1回訪問に来て頂き本人の希望を聞いてカット・パーマ等をしている。また、希望の理美容店に行く支援もしている。</p>		
<p>54</p> <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者と職員と一緒に食事をして、コミュニケーションをはかり楽しく食事をしている。盛り付けや、配膳・片付けなど、自らお手伝いをして下さったり、声掛けによって手伝ってくださる方がいる。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつは決まった物を提供しているが、ご本人が望む飲料物は制限しないで、買い物やご家族に依頼するなど支援をしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	毎日の排泄パターンを把握し、不快にならないよう声掛け・誘導を行っている。状況によっては、センター方式シートを活用し、排泄パターンを把握して時間やご本人の仕草を見て、声掛け・誘導を行っている。	○	個々の残存機能が低下しないよう支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	サイクルを決めてはいますが、健康状態等を考慮し声掛けをしながら、希望に答えられようとして、入浴を楽しめるようにしている。その際の見守りや介助については、一人ひとりに合った支援をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者の生活習慣やその時々状況に応じて消灯や昼寝の声掛け等を行い支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その日の健康状態を考慮しながら、食事の準備や片付け、塗り絵や体操など、利用者に応じた活動支援を行っている。天気の良い日は、園芸や散歩・買い物に行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は、ホーム側で行っているが、一部の利用者は自分で所持され買い物などで使用している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人の希望を尊重しながら、天候・体調を考慮しながら職員同行で散歩や買い物などの外出支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族のご協力で外食・外出・外泊をされている。職員同行で花見などの行事を実施している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	全利用者ではないが、自ら電話をしたり、手紙のやり取りをしている方がいるので支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族・知人・友人等の面会は、挨拶や声掛けをして話しやすく、気持ちよく過ごして頂ける環境づくりをしている。また、訪問された際には、近況報告をさせて頂き、気軽に訪問して頂ける様にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修やユニット会議を通じて知識を学び、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	研修会等の積極参加と、ユニット会議などで職員間での知識向上に努めていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないケアに取り組んでいる。玄関にセンサーを設置し、入外出に対応している。夜間帯は、防犯上の理由から施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者のプライバシーに配慮し、居室に入る際は、ノックや声掛けをしたり廊下を通る時は、さりげなく様子を見るようにしている。また、職員間での声掛け連携を図り安全に努めている。一部利用者にはセンサーマットを使用し安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物類の保管はホーム側で行っている。薬は施錠できる所に保管している。危険行為の認識のない方には、洗剤等も自室には置かないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日頃の申し送りやケアカンファレンス、ユニット会議時に一人ひとりの状態を把握し、職員間で共有・事故防止に取り組んでいる。年2回の防災訓練を初め火災対策も行なっている。	○	行方不明時の対応策に取り組んで活きたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の連絡体制を揭示し、職員全員把握している。また、マニュアル作りも行っている。	○	初期対応・応急処置が出来るよう定期的に勉強会を行って活きたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の消防訓練を実施している。運営推進会議にて、地域の方と避難場所等の情報交換も行っている。	○	マンション住人を中心に、近隣の方との連携を図って活きたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	身体・精神的に変化があった場合など医療機関と連携を図り指示を仰いでいる。家族にも何かあれば、常に連絡を取り合って対応策を話し合っている。また、利用者の希望・自己決定を重視する為、事故が発生する可能性も伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々のバイタルチェック、顔色・表情等を観察し、利用者の体調変化や異変について早期に発見できるよう努めている。異変があった際は職員間で情報を共有し、速やかに管理者・往診医に報告をし指示を仰ぐよう早期対応に努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の用法・用量についてはファイルに記載し、服薬もれがないように都度確認をしている。薬の理解については、全職員が理解するまでには至っていない。	○	ユニット会議などの議題にして、薬の目的や副作用などについて勉強していく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分と排便確認は、毎日欠かさずに行っている。医師の指示のもと下剤や座薬調整をしている方もいる。牛乳の提供やラジオ体操など働きかけに取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、一人ひとりの口腔状態に合わせた声かけ・介助を行っている。また、歯科往診を活用し、定期的に口腔ケアを行っている。</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>日々の食事量・水分量をチェック記入し、十分摂取できるよう職員間でも話し合いながら支援している。利用者によっては、摂取量が少ない方もいる為、栄養ドリンクなどで補っている。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症マニュアルをもとに常日頃取り組んでいる。感染予防の為、手洗い・うがいは徹底し、外来者にも手洗いアルコール消毒をお願いしている。またドアノブや手摺・椅子なども除菌している。</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>布巾・まな板は、使用后及びや飲待で漂白している。食材の在庫を点検し、消費・賞味期限のチェックを行い食材残りは破棄している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>毎日清掃をして、花壇作りも利用者と一緒に作っている。暖かい時期は、玄関前にベンチを置き散歩の際、休憩をしている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間には、季節ごとに置物や装飾など季節感や生活感をのある飾りを定期的に採り入れ、居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間のソファや和室を活用し、孤立することが無い様に声掛などをして、利用者同士が触れ合える居場所を提供している。		
83 〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、家具など本人の使い慣れた馴染み物を置き、安全にも配慮した配置にしている。		
84 〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、掃除の時に換気を行なっている。状況に応じて、外気を入れ、温度・湿度調整もこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内には、手摺りの設置や安全に配慮した環境に努めている。		
86 〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者一人ひとりの居室に表札を掛けている。他にもトイレ、洗面所など場所が分かる様に表札を掛けて工夫をしている。		
87 〇建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外回りには、花壇があり草むしりや水やりを一緒に行い、ベンチで涼んだりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ✓② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ✓① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ✓① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ✓② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ✓③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ✓② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ✓② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ✓② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ✓③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ✓②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>✓①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ✓②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ✓②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・利用者が安心して日々の生活を送れるよう利用者の思いを聞き、職員間で連携を図りながら毎日笑顔を絶やさず明るく接するように心掛けたケアにあたっている。
- ・御家族との連絡・協力を得ながら、事故につながらない様に配慮している。